

令和5年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	岡山市立山南公民館
実施施設名	岡山市立山南学園

1. 事業趣旨と目的

山南学園の児童・生徒に防災を体験し防災を学ぶとともに、山南学区の太伯、幸島、朝日、大宮の4地区の住民が初めて合同の防災訓練を行い、児童・生徒と交流すること。

2. キャンプ実施実績

事業名称	山南防災キャンプ			
実行委員会名称	山南防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 5 年 7 月 30 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	消防ヘリ、消防自動車見学	岡山市消防局東消防署	消防署員の消火活動の説明	0.5 時間
	起震車、火災VR体験	岡山市消防局東消防署	起震車による地震体験、火災VRの体験	1.0 時間
	水消火器、煙道体験	岡山市消防団東第二方面隊	水消火器と煙道体験	1.0 時間
	非常食試食	朝日みまもり隊	水で調理したα化米、羊羹、	0.5 時間
	EWI&防災トーク	リリーさん	EWIでの演奏と防災トーク	1.0 時間
合 計				4.0 時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	50 名	中学生	3 名	高校生	2 名
未就学時・乳児	25 名	家族・地域住民	177 名	教職員・施設職員等	9 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			0 名	無償ボランティア	9 名
総 計					275 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	19 名	主 な 構 成 員	各地区連合町内会会長、各地区自主防災会会長、各地区青パト隊長、山南学園校長、消防団東第二方面隊長、神崎駐在		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開催時間
	3月25日	山南公民館	4地区合同開催の合意		1.0 時間
	4月15日	山南公民館	事業内容の絞り込み		1.5 時間
	5月6日	山南公民館	事業内容の承認、小委員会の設置、駐車場		1.5 時間
	6月10日	山南公民館	役割分担、タイムスケジュール、広報活動、熱中症対策		1.5 時間
	7月8日	山南公民館	勧誘活動、詳細な役割分担、熱中症対策		1.5 時間
	7月25日	山南公民館	前日準備手順、搬入手順		1.0 時間
合 計					8.0 時間

公民館名

岡山市立山南公民館

実施施設名

岡山市立山南学園

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	山南防災キャンプ振り返り			
実 施 期 日	第1回	令和 5 年 8 月 5 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	振り返り	実行委員会	事業内容、駐車場、熱中症対策	1 時間
				時間
				時間
				時間
合 計				1 時間

6. 成果と課題

今 年 度 の 成 果	<p>コロナ禍でここ数年防災訓練ができていなかった4地区(太伯、幸島、朝日、大宮)の住民が久し振りに防災訓練を実施できたことと、特に今まで行ったことがなかった4地区合同で実施できたことは、今後の防災行事を行う上で一つの布石になったと思います。実行委員会での討論を何度も重ね、四つの地区の連長が中心に熱心に勧誘していただき275人の方々が参加されました。特にポスターのデザインの効果もあり、若い世代の家族の参加が多く見受けられました。また、心配された熱中症対策で救護室を設置したり諸々準備しましたが、無事何事もなく終了することができました。</p>
今 後 の 課 題	<p>4地区合同の防災行事として初めて実施されることになったため、今回は公民館主導で実行委員会を立ち上げ防災キャンプとして実施しましたが、今後は住民主体で実行委員会を立ち上げ防災訓練として実施してほしいと思います。 また、このような屋外で行う場合は夏場の実施は避けなければなりません。</p>

7. 活動の様子



全体案内図



総合受付



総合受付



消防車両見学



4地区消防分団勢ぞろい



防災ヘリ「ももたろう」見学



地震体験車



水消火器体験



煙道体験



火災VR体験



水での備蓄食調理



備蓄食配給



家族で備蓄食試食



「ジェンダーの視点で考える防災」パネル展



避難所での段ボールの間仕切りと組立ベット



リリーさんのEWIライブと防災講話

令和5年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名 岡山市立光南台公民館

実施施設名 岡山市立光南台公民館

1. 事業趣旨と目的

自主防災意識の高揚を図る。また、避難所での生活を体験することで、日頃から防災・減災に取り組むようになる。

2. キャンプ実施実績

事業名称	防災キャンプ			
実行委員会名称	光南台公民館			
実施期日	第1回	令和5年7月29日から1日間		
	第2回	令和 年 月 日から 日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	在宅避難を考えよう	宮浦女性防火クラブ	講話(在宅避難をする時の14の注意点)	0.5 時間
	ペット防災クイズ	中学生ボランティア	ペット動物の災害対策についてのクイズを中学生ボランティアが行う	0.5 時間
	災害用伝言ダイヤル	岡山NTT	災害対策担当による指導・体験	0.5 時間
	通報訓練	南消防署	タブレットを使って通報の方法の指導と体験	0.5 時間
	災害食の実習・紹介	宮浦女性防火クラブ	アルファ米とお湯ポチャ調理を体験・試食	1 時間
合 計				3 時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	2 名	中学生	5 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	0 名	家族・地域住民	15 名	教職員・施設職員等	11 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			名	無償ボランティア	11 名
総 計					44 名

4. 実行委員会実績

構成員数	10 名	主な構成員	宮浦女性防火クラブ		
会議内容	会議日	場 所	協 議 内 容 等	開催時間	
	3月25日・6月3日	光南台公民館	日程調整・活動内容の検討	3 時間	
	7月25日・7月28日	光南台公民館	買物・防災食の実習の準備	2 時間	
	7月22日	光南台公民館	中学生ボランティアとの打合せ	1 時間	
	10月14日	光南台公民館	アンケート結果報告と反省会	1 時間	
合 計					7 時間

公民館名

岡山市立光南台公民館

実施施設名

岡山市立光南台公民館

5. 事業成果の周知実績

行事名称	防災キャンプ 実施報告会及び展示会			
実施期日	第1回	令和 5 年 8 月 20 日 から 1 日間		
	第2回	令和 6 年 2 月 1 日 から 27 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	町内会合で報告		宮浦町内会例会で報告	時間
	活動のまとめ掲示		公民館文化祭・ロビーなどに展示	時間
				時間
				時間
				時間
合 計				時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所への避難だけでなく在宅避難を考えることに視点を変えた「備え」を考えることができた。その中でペット防災について中学生ボランティアがクイズで取り組むことで難しい課題についても考えるきっかけができたと思う。 ・NTT災害用伝言ダイヤルや南消防署の通報訓練は実際に経験する機会が少ないので専門家の指導を受け体験することができた。 ・災害食の実習は毎回繰り返し行い、備蓄食料だけでなく日頃の生活で使用している食料や日用品を災害時に利用できるように備え(ローリングストック)を進めることができた。 ・中学生ボランティアと事前の打合せを初めて行い、ボランティアの主体的な活動を推進することができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・避難の一つに「在宅避難」があることの意識が薄く、もっと周知していく必要がある。 ・企画の段階から中学生ボランティアと一緒に取り組んで、防災の備えを伝える大切さを理解し次世代に繋いでいきたい。そのためにも児童・生徒への声掛けや学校との連携の在り方を考え直す必要がある。

7. 活動の様子

◇防災キャンプ 実施日:令和5年7月29日(土) 会場:光南台公民館

【在宅避難のために必要なこと】 講話

ライフラインが止まったら家で過ごせるか注意点を考え確認しました。

- ①家具の転倒防止 ②家族への連絡 ③水の管理(非常用のトイレ)
- ④食の備蓄 ⑤申請のための写真など



【ペット防災クイズ】

中学生ボランティアが準備段階からクイズを考え、YES,NOカードを使って楽しく身近な疑問の解決につながった。

日頃のしつけとペット用品の準備が必要であるという話でした。



【災害時の伝達方法】

NTT災害用伝言ダイヤルと南消防署の通報訓練で専門家の方に教えてもらい、実際に使って体験をしました。



【災害食づくり】

ポリエチレン袋を利用した「お湯ポチャ調理」を実習し、配膳・試食しました。

メニュー アルファ米(チキンライス)・オムレツ・湯で野菜(ブロッコリー)・きな粉マカロニ



<参加者の感想>

- ・災害用伝言ダイヤルや通報訓練の機器を使用して緊張したが体験できてよかった。
- ・在宅避難に必要なことや備蓄の目安がわかってよかった。もっと知りたいと思った。
- ・調理器具を使わずにオムレツができて驚いた。ローリングストックに適しているものを知りたい。
- ・普段の生活の中で「防災」についてあまり考えてなかったので勉強になりました。
- ・参加者同士のコミュニケーションがとれて、地域のつながりを持つ良いきっかけになった。

令和5年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立御南西公民館

実施施設名

岡山市立西小学校

1. 事業趣旨と目的

・地域住民と将来を担う小学生、中学生が防災という目的で関わり繋がりを持つことにより、防災以外でも地域の活動に積極的に関わり世代を超えた地域の絆をつくる。
 ・災害が起きた場合、命を守る避難行動について考え、避難所などで自分にできることを体験し災害時に地域の一員として役に立つという意識を高める。
 ・避難してきた人全員で避難所を開設し、運営していく。
 ・「誰かがする」ではなく「誰もがができる」西学区モデルの防災・避難訓練とする。

2. キャンプ実施実績

事業名称	第4回西学区防災キャンプ			
実行委員会名称	西学区防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和5年10月8日から1日間		
	第2回	令和 年 月 日から 日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	検温・会場図・アンケート配布	西学区安全・安心ネットワーク	参加者に検温と会場案内	0.75 時間
	避難所利用登録票記入・記入補助	西学区安全・安心ネットワーク	スタッフ・中学生が予め記入して持参した登録票を記入補助担当が確認し当日参加者は登録票記入を体験	0.75 時間
	登録票受付と受付番号配布	西学区安全・安心ネットワーク	避難所利用者登録票の記入内容確認と受付番号発行	0.75 時間
	記録係	西学区安全・安心ネットワーク	避難所利用者登録票を名簿に転記	0.75 時間
	避難スペースへ誘導	西学区安全・安心ネットワーク	受付で発行した受付番号で避難スペースへ誘導	0.75 時間
	避難スペース作り	西学区安全・安心ネットワーク	毛布縦2/3を1人分としたスペース作りと幅1mの通路を作る体験	0.75 時間
	避難所表示	スタッフ・参加者全員	案内・注意書き等の表示を設置	0.75 時間
	避難所設営	スタッフ・参加者全員	スタッフが指導し机・イス・消毒液・ゴミ袋など配置と会場設営	0.75 時間
	発泡スチロールベッド・パーティションデント組立	西学区安全・安心ネットワーク	スタッフが指導し中学生、小学生と保護者を対象とした発泡スチロールベッドとパーティションデントの組立て	2.0 時間
	持ち出し袋体験	西学区安全・安心ネットワーク	小学生と保護者、中学生が持ち出し袋の重さ・中身を確認	2.0 時間
	防災〇×クイズ・工作	中学生ボランティア	中学生が考えた防災〇×クイズ、岡山大学被災地支援ボランティア「おかやまバトン」の大学生に教わった「紙でコップと食器作り」	0.75 時間
	防災講習・グループワーク	森田靖氏	真備の避難所運営の課題を知り予め設定したテーマに分かれたグループワークと発表	0.75 時間

ホットブレイク	トヨタ自動車	電気自動車のバッテリーでスマホ充電・お湯を沸かし飲み物を提供	2.0	時間
水消火器体験	北消防署今出張所・消防団今分団	水消火器の操作体験	2.0	時間
地震体験車	北消防署今出張所	地震体験	2.0	時間
マンホールトイレ	西学区安全・安心ネットワーク	マンホールトイレの組立・解体訓練、車イス使用者の利用訓練	2.0	時間
無線取り扱い講習	地域の無線免許有資格者	無線、トランシーバーを使い基本的取扱いと外部との通信訓練	0.75	時間
災害医療講習	岡山市立市民病院職員	災害時の救急医療・避難所の感染症対策などの講習	0.75	時間
炊き出し	西学区交通安全母の会・西学区栄養改善協議会	参加者に試食としてアルファ化米で作ったお粥と非常食のライスクッキーを提供	1.25	時間
軽い体操	岡山市立西小学校校長	座ったままでもできる軽い体操で体を動かし体調管理	0.2	時間
災害伝言ダイヤル体験	NTT職員	災害伝言ダイヤルの役割と機器を使って体験	1.5	時間
合 計			23.95	時間

3. 参加者実績（延参加者数）

小学生	46 名	中学生	20 名	高校生	0 名
未就学時・乳児	12 名	家族・地域住民	113 名	教職員・施設職員等	20 名
有償ボランティア（講師・運営補助者等）			1 名	無償ボランティア	9 名
総 計					221 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	33 名	主 な 構 成 員	西学区安全・安心ネットワーク、西学区防災部会、西地区民生委員児童委員協議会、西学区愛育委員会、西学区交通安全母の会、西学区スポーツ協会、西学区連合老人会、西学区婦人会、西学区栄養改善協議会、西コミュニティ協議会、西学区各町内会、西小学校PTA、西小学校、御南中学校、岡山市今認定こども園、ふたばこども園、くらしのたね、岡山市消防団今分団		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	4月20日	西コミュニティハウス	実行委員会準備会		1.0 時間
	6月10日	西小学校	第1回防災キャンプ実行委員会		1.0 時間
	7月15日	御南西公民館	おかやまバトンによる中学生防災講習		1.5 時間
	8月25日	西小学校	防災キャンプスタッフ打合せ会		1.5 時間
	9月8日	御南西公民館	防災キャンプ最終実行委員会		1.5 時間
	9月11日	御南中学校	中学生ボランティア説明会		0.75 時間
	9月21日	御南中学校	中学生ボランティアリハーサル		0.75 時間
	10月8日	西小学校	第3回西学区防災キャンプ		4.5 時間
	11月24日	西小学校	第3回西学区防災キャンプ振り返り会		1.5 時間
合 計					14 時間

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	第4回西学区防災キャンプ			
実 施 期 日	第1回	令和 5 年 11 月 24 日 から 1 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	振り返りと令和6年度案	実行委員・スタッフ	防災キャンプの振り返り、改善点と課題を踏まえ次回(令和6年度)のテーマとスケジュールの検討	1.5 時間
合 計				1.5 時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<p>◇今回の防災キャンプを含め今までの防災キャンプの感想ではスタッフ以外中学生、小学生と保護者、地域の人々の殆どが防災訓練に初めての参加だった。「今後町内会などで防災・避難訓練があれば参加するか」の間にも殆どの人が参加するとの回答だった。</p> <p>今後も防災キャンプは避難所体験と基本的な避難訓練を主体として、子どもと保護者と地域の大人との絆づくりと世代間・地域間の交流を図り防災意識の向上を目的とした訓練とすることを確認した。</p> <p>◇また今回、西小学校の児童46名とその保護者49名家族15名の計110名の参加があり子どもと若い保護者の防災意識の向上は西学区全体の防災意識の向上にも繋がると期待できる。</p> <p>◇今回で4回目の防災キャンプでは、過去3回の経験のあるスタッフは避難所開設と運営の流れを把握し、初めて参加したスタッフに指示し知識や具体的な進め方を共有した活動ができた。</p> <p>◇新しく、岡山市立市民病院の災害医療講習、災害伝言ダイヤル講習を取り入れた他、炊き出しも初めて行い、いづれも小学生、中学生が関心を持つ内容だった。また感想では参加者の約8割の人が「今まで避難所利用者登録票を見たことがなかった」との回答だったが、今回はスタッフ、中学生ボランティアは、避難所利用者登録票に事前に記入して持参し、小学生と保護者は受付で記入し内容を体験することができた。</p> <p>◇中学生ボランティアは西学区防災キャンプで小学生と保護者、地域の人に教えることを目的として今年度も7月15日に岡山大学被災地支援ボランティア「おかやまバトン」の大学生に防災〇×クイズ、防災工作で紙食器作りなどを習った。9月15日は中学校で防災キャンプのスケジュールと発表内容の確認、9月27日にはリハーサルを行った。防災キャンプでは自分で考えた防災〇×クイズの問題を小学生と保護者、地域の人に発表し、紙食器の作り方を指導したことで参加者からは「面白かった」「初めて知った」などの回答が得られ防災知識と意識の向上に繋がった。</p> <p>◇森田氏から避難会場設営・受付・炊き出し・ペットの4つのテーマでグループワークの進行があり、スタッフ、小学生と保護者も参加し避難所について考えることができ、色々な意見が出、最後に話し合ったことを発表した。</p>
今後の課題	<p>◇今回地域主導の防災キャンプとして避難所開設準備、運営をグループ分けして打合せし活動したが、次回は全体的に地域主導の体制に進める。</p> <p>◇避難所利用者登録票記入、受付、避難者名簿作成と避難スペースへの誘導までの避難所開設は誰でも関わられるように知識の共有とレベルアップを図る。</p> <p>◇災害時の避難所として想定される、体の不自由な人、外国人の受け入れ体制づくりに取り組む。</p> <p>◇地域の病院など医療関係、現在参加している学校園との連携強化と未参加の学校園との関係づくりを進める。</p> <p>◇西学区の防災意識の向上と広がりを図り、また防災キャンプの準備会にも移行する常設の防災連絡会の設置を進める。</p>

7. 活動の様子 令和5年10月8日(日) 参加総数221名

西学区防災キャンプでは、災害発生時の避難所を想定し「誰かがするではなく、できることは誰もがする」との共通認識のもと参加者全員で会場準備と設営、後片付けを行います。

AM8:00スタッフ・中学生ボランティア集合

◇中学生は配食訓練で水・アルファ米・ライスクッキーを袋詰

8:30参加者集合

◇避難所利用者登録票記入から受付・避難者名簿の記入へ

「避難所利用者登録票記入は難しかった。」



◇受付で発行した受付番号票で避難スペースへ案内

毛布縦2/3で1人分スペース、家族の人数分のスペース確保



◇ベッドとパーティションテントの組立てと収納

「今度は私もテントの組立てをしたい。」



◇持ち出し袋の中身と重さ確認

「思ったより軽かった。」



◇9:15開会挨拶(スケジュール・注意事項の案内)の後

◇西小学校校長先生の軽い体操とじゃんけんゲーム

「避難所でのストレス解消、体が温かくなった。」



◇テレビの接続訓練



◇中学生が考えた防災〇×クイズ

◇紙でコップと食器作り



◇西小学校に設置のマンホールトイレ ◇電気自動車のバッテリーでの組立て体験(マンホールトイレには お湯を沸かしホットブレイク体の不自由な人用もあるよ) (スマホも充電できるよ)



◇消防車設備の説明



◇アルファ化米とライスクッキーの試食

「美味しかった、色々な非常食を知りたい。」



◇救急車内設備の説明

「救急車の中を初めてみた。」



◇市民病院の災害医療講習「災害時の救急処置と避難所の感染症対策」

「良かったよく分かった。」 「受けられなかったので次は参加したい。」



◇無線取り扱い講習



◇災害伝言ダイヤル講習「私のスマホで繋がった、安心した。」



「怖かった。
「頭を守って。」

◇地震体験車と水消火器



「的に当てるのは簡単。」
(小学生に1番人気の水消火器)



◇会場設営・受付・炊き出し・ペットの4つのテーマでグループワーク

(スタッフ・小学生と保護者からも色々な意見が出ました)

(最後にグループ別に話し合ったことを発表しました)



◇森田さんから

真備の避難所での事例とハイゼックス袋の説明

「今日は中学生がよくがんばりました。」

がありました。「家庭で試してみてください。」



(組み立てたマンホールトイレは分解して収納できるよ)



令和5年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

岡山市立御津公民館

実施施設名

岡山市立御津公民館

1. 事業趣旨と目的

平成30年度西日本豪雨で、御津地域も大きな被害を受けました。当地域は、台風等で浸水や土砂崩れが起きやすく、日頃からの備えが必要であると考えます。各小学校区で情報交換会を行い、地域住民の防災意識も高まっています。災害を想定した様々な体験学習をすることによって、一人ひとりの防災力を高め、災害が起こったときに必要なことは何か、参加者が主体的に関わり、学び、且つ中学生、高校生がリーダー的な役割を担うことで彼ら自身の成長を促す機会とする。

2. キャンプ実施実績

事業名称	第12回御津防災キャンプ(まなBOU祭! さげBOU祭!)			
実行委員会名称	御津防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 5 年 11 月 11 日	から 1 日間	リーダー研修
	第2回	令和 5 年 11 月 25 日	から 1 日間	当日
	第3回	令和 年 月 日	から 日間	
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講話、ツール	岡山市危機管理室	小学生向けの防災のお話、非常時ツールの説明	1 時間
	消防関連体験	消防署・消防団	心肺蘇生法、煙道体験、水消火器、放水実演の体験	8 時間
	緊急時体験	自衛隊	ロープワーク、ブルーシート寝袋作りの体験	5 時間
	非常食体験	栄養委員	非常食(アルファ米)を用いた炊き出しの提供	6 時間
	仮想体験	実行委員	バケツリレー、大声体験、防災検定	3 時間
	非常時持ち出し薬	就実大学付属薬局	非常時持ち出し薬の説明	2 時間
合 計			25 時間	

延べ時間です

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	36 名	中学生	34 名	高校生	22 名
未就学時・乳児	8 名	家族・地域住民	26 名	教職員・施設職員等	20 名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			1 名	無償ボランティア	61 名
総 計					208 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	27 名	主 な 構 成 員	連合町内会長、体協会長、育成協会長、愛育委員代表、小・中・高代表(6校)、小中PTA会長・副会長、消防団隊長、婦人会長、栄養委員代表、民生・児童委員、社協、市支所、公民館職員	
会 議 内 容	会 議 日	場 所		開催時間
	8月22日	御津公民館	今年度の内容と進め方、役割分担について協議	2 時間
	11月16日	御津公民館	当日の役割分担とスケジュールの確認	2 時間
	12月14日	御津公民館	反省(アンケート結果)と来年度について	2 時間
合 計				6 時間

公民館名

岡山市立御津公民館

実施施設名

岡山市立御津公民館

5. 事業成果の周知実績

行事名称	御津防災キャンプ第3回実行委員会			
実施期日	第1回	令和 5 年 12 月 14 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	意見交換	参加者	感じたことや改善案等の意見交換	1 時間
	アンケート結果	公民館職員	アンケート結果の報告、反省と課題	0.5 時間
	来年度について	参加者	意見交換、課題からの来年度の進め方検討	0.5 時間
				時間
				時間
合 計				2 時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の関係団体等の協力により、小学生をはじめ一般住民の方々に防災意識を高めていただくことができたと感じています。 ・次代の防災を担う中高生たちが防災リーダーとして積極的に参加し、知識を習得することで地域の防災がより強固になったのではと感じています。 ・被災後のリスクを最小限にする為の知識は習得できたのではと感じています。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプの内容・テーマについてはほとんど昨年からの継続であり、参加者も減少しています。主旨から見れば仕方がないことですが新テーマを考えて行きたいと思えます。 ・回を重ね、イベント化しつつあり、子どもたちにとっては半分は遊び感覚があるようです。それはそれできっかけになれば良いと思えますが、今後は内容、日程を含めて再検討したいと思えます。 ・来年度以降も継続したいと考えていますが、もっと地域を巻き込んだ進め方を検討します。(地域が自主性を持って参加する)

7. 活動の様子

令和5年11月11日(土) 中高生リーダー研修 12:30~16:00

昨年のキャンプのDVDを視聴後、心肺蘇生法、ロープワーク、水消火器、ブルーシート寝袋作りの講習を受け、担当するブースを決めました。



令和5年11月25日(土) 御津防災キャンプ 9:00~15:00

◇防災のお話



◇非常食の説明



◇非常時ツールの説明



◇ブルーシートで寝袋作り



◇心肺蘇生法



◇ロープワーク



◇水消火器



◇バケツリレー



◇大声体験



◇非常時の持ち出し薬(しゅうじつ薬局)



◇緊急車両展示



◇炊き出し体験



◇放水実演



令和5年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名	建部町公民館
実施施設名	建部町文化センター東側広場

1. 事業趣旨と目的

三世代交流の「さわやか健康教室」に防災キャンプを組み合わせることにより、地域の防災力の向上、地域住民の防災意識の喚起、地域のきずなの構築に役立てる。

2. キャンプ実施実績

事業名称	建部上区防災キャンプ			
実行委員会名称	建部上区防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 5 年 7 月 22 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災講和	岡山北消防署建部出張所	非常時(火災)対応の説明	1 時間
	水消火器訓練	同上	高齢者・子供を中心らに使い方を体験する	1 時間
	消防車両見学	同上	消防車両の装備見学を行う	1 時間
				時間
				時間
合 計				3 時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	10 名	中学生	名	高校生	名
未就学時・乳児	17 名	家族・地域住民	72 名	教職員・施設職員等	名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			名	無償ボランティア	20 名
総 計					119 名

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	10 名	主 な 構 成 員	建部区町内会、栄養委員、愛育委員、建部町公民館		
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等		開 催 時 間
	4月4日	建部町公民館	プログラムの内容検討		1 時間
	5月27日	同上	プログラムの内容、分担協議		1 時間
	6月4日	建部町文化センター	参加者名簿、準備、分担の確認		1 時間
					時間
合 計					3 時間

公民館名

建部町公民館

実施施設名

建部町文化センター東側広場

5. 事業成果の周知実績

行事名称				
実施期日	第1回	令和 5 年 2 月 5 日 から 13 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	報告書の掲示		建部町公民館ロビーに報告書掲示	時間
				時間
				時間
				時間
				時間
合 計				0 時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<p>子どもたちが参加しやすいように今年も夏休みの最初の土曜日に実施したため、多くの参加をみる事ができた。 活動内容は昨年とほぼ同じであったが、1年経って新たな気持ちで講話を聞き、消火器訓練を体験することにより、防災について考えるよい機会となった。</p>
今後の課題	<p>猛暑の中の屋外での活動であり、かつ高齢者の参加も多いことから熱中症対策(開始時刻、実施時間、場所等)には万全を期す必要がある 訓練の側面から考えると、毎年ほぼ同じメニューにせざるを得ないが、参加者のモチベーションを維持することが難しくなっている。</p>

7. 活動の様子

「建部上区防災キャンプ」実施日：令和5年7月22日(土)会場：建部町文化センター東側広場

【開会】

建部上区の井口会長から開会の挨拶と注意事項の説明がありました。



【防災講話】

説明：北消防署建部出張所長 岡本消防指令

①熱中症対策について

昨日の梅雨明け後に暑い日が続き、熱中症による救急車出動が増えていることから注意を喚起する説明がありました。



②火災について

7月20日現在で岡山市全体では112件の火災。そのうち建部町は3件。一人一人の意識が高い。年間を通じて0にしてください。112件のうち、建物火災が50件、その他火災(焚火が主)が40件。原因は一人一人の不注意による。絶対に目を離さないこと。今後もこのようなイベントを続けてほしいという説明がありました。

【水消火器訓練】(指導)北消防署建部町出張所職員

老若男女を問わず消火器の使い方を体験しました。



【救急車両・消防車両見学】

(指導)北消防署建部出張所職員

希望者に救急車両・消防車両の見学と説明をしてもらいました。



【非常食(ライスクッキー)試食】

(説明)建部町公民館職員

米粉を使用したアレルギー対応のライスクッキーの説明をして全員に試食してもらいました。非常に好評でした。



令和5年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名

建部町公民館

実施施設名

建部町公民館・福渡コミュニティハウス

1. 事業趣旨と目的

福渡地区は前には旭川、後ろには土砂災害の危険性のある山が控えていて、住民は災害と隣り合わせに暮らしている。過去に幾度も水害に遭遇していることから住民の相互交流の機会とするとともに、災害の備えを学ぶ場とする。

2. キャンプ実施実績

事業名称	「福渡子ども防災教室」			
実行委員会名称	福渡防災キャンプ実行委員会			
実施期日	第1回	令和 6 年 1 月 20 日 から 1 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
	第3回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	避難所受付	福渡みんなの防災団	公民館避難の際の受付、検温、消毒	0.5 時間
	避難所体験	福渡みんなの防災団	用途別2室の確認、アルミクッションシートの確認	1 時間
	福渡を知ろう	福渡みんなの防災団	災害が起こりやすい場所の確認	0.5 時間
	三世代交流防災カルタとり	福渡みんなの防災団	福渡オリジナル防災カルタで楽しみながら防災について学習する	1 時間
	消火器体験	福渡消防団	いざという時の消火器の使い方を学習する	0.5 時間
合 計				3.5 時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	7 名	中学生	名	高校生	名
未就学時・乳児	名	家族・地域住民	12 名	教職員・施設職員等	名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			名	無償ボランティア	21 名
総 計					40 名

4. 実行委員会実績

構成員数	15 名	主な構成員	福渡みんなの防災団役員、防災委員、消防団、栄養委員、公民館		
会議内容	会議日	場 所	協 議 内 容 等		開催時間
	12月22日	建部町公民館	日程、内容、実施時間、準備品の検討		1 時間
	1月5日	建部町公民館	役割分担、準備物、全体の流れ確認		1 時間
					時間
合 計					2 時間

公民館名

建部町公民館

実施施設名

建部町公民館・福渡コミュニティハウス

5. 事業成果の周知実績

行事名称				
実施期日	第1回	令和 6 年 2 月 5 日 から 13 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	報告書の掲示	福渡みんなの防災団	建部町公民館ロビーに報告書掲示	時間
				時間
				時間
				時間
				時間
合 計				時間

6. 成果と課題

今年度の成果	<p><会場・建部町公民館> 福渡防災団が公民館一階に受付を設置し、検温、消毒、名簿作成を行い階上の避難室へ誘導した。公民館が避難所として認められてから初の訓練であったが、小学生は保護者とともに落ち着いて行動できていた。三階の和室では避難所での食事、水、トイレや布団代わりに敷くアルミ製クッションシートの説明を受けて避難所生活のおよそのイメージをもつことができたようだった。また、備蓄倉庫では食料、水、毛布、簡易トイレを相当数常備しているのを見て安心していた。</p> <p><会場・福渡コミュニティハウス> 防災団長手製の「防災かるたとり」を①読み手(子ども)取り手(大人)②読み手(大人)取り手(子ども)の二回行い、防災の基本となる知識を楽しみながら身に付けることができた。炊き出し訓練として、ハイゼックスで米を炊く手順を説明し、炊き上がり後、全員で試食した。</p> <p><子どもたちの感想> ・避難した和室の生活の仕方が分かった。・カルタで避難の仕方が分かった。・消火器の使い方が分かった。・避難所の場所が分かった。</p>
今後の課題	<p>・この地区は少子高齢化の著しい地域であり、児童も全学年に在籍しているのではなく、年により固まった人数が卒業すると途端に児童数が激減することがある。今年、児童の参加者が少なく、高齢者の参加が多かったのはそのような理由による。</p>

7. 活動の様子

○建部町公民館会場

【受付】

防災団役員が公民館入口に受付を設置。避難してきた住民の検温を行い、名簿登載。名前シールを胸に貼ってもらい、避難室に誘導した。



【3階避難室(和室)の説明】

アルミ製クッションシートと座布団で休息の仕方を説明し体験した。



【2階避難室(カーペット敷)の説明】

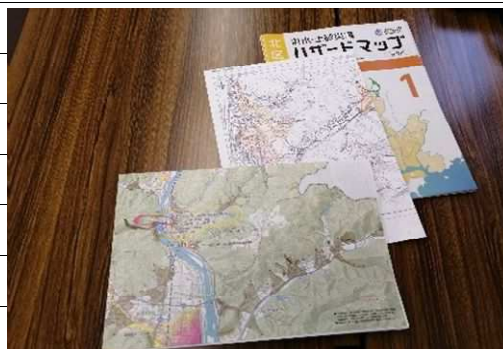
コロナ蔓延時の避難室として感染者用の部屋を説明した。その際は受付は別で、部屋への入室も3階の一般者とは異なる動線となることを説明した。



○福渡コミュニティハウス会場

【危険個所の説明】

ハザードマップと地図で自宅がどのような状況下にあるのか説明して各自確認した。



【緊急トイレの説明】

避難所でトイレが使用できなくなった際の緊急トイレを紹介して、その使用法を説明した。



【炊き出し訓練】

災害救助用炊飯袋(ハイゼックス)を使用したハイゼックス包装食の作り方を説明して実際に米と水を入れて沸騰した鍋で30分間煮た。できたご飯を全員が試食した。



【福渡防災かるた取り大会】

防災団長手作りの福渡防災かるた取りを、大人の部と子供の部に分けて実施した。



【消火器体験】

福渡消防団の団長から消火器の使用法を説明してもらい、実際に水消火器を使って、火元に当てる体験を行った。



令和5年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実績報告書

公民館名 岡山市立瀬戸公民館

実施施設名 岡山市立江西小学校

1. 事業趣旨と目的

近年、全国各地で大規模自然災害が多発し、避難所が開設されていることに鑑み、住民の避難所運営に関する知識取得を図り、地域活動に協働である機運を高めると共に、学生の防災に対する意識の高揚を図ることを目的とする。
また、この目的を完遂するため、江西学区防災会と協力し、本事業の企画から運営に至るまで協働で実施する。

2. キャンプ実施実績

事業名称	江西学区防災キャンプ			
実行委員会名称	江西学区防災会			
実施期日	第1回	令和5年11月18日から1日間		
	第2回	令和5年11月22日から1日間		
	第3回	令和 年 月 日から 日間		
主な活動	プログラム等	講師・協力団体等	活動等の概要	活動時間
	防災資機材展示	各町内会	各町内会より管理している防災資機材の展示	3時間
	水消火器訓練	消防団	消防団による水を使った消火器取り扱い訓練	3時間
	煙道体験	消防団	煙に巻かれながらの避難の体験	0時間
	地震体験	岡山市消防局	起震車による地震体験	3時間
	液状化実験 災害動画上映	瀬戸南高等学校 瀬戸公民館	液状化など様々な災害への備えを考える動画上映及び液状化実験	3時間
	防災作文発表	管内中学校、高校	中高生5名による防災について作文発表	0.5時間
	防災ノート説明 講評	岡山市危機管理室	防災マニュアルについて危機管理室より講話	0.5時間
	避難所用テント設 営	岡山市危機管理室	小学校配備済みのテント等を展張し使用法を学ぶ	3時間
	非常食配食 炊き出し訓練	江西学区 栄養改善協議会	アルファ化米非常食配食訓練、炊き出し訓練	4時間
	非常食配食 炊き出し訓練	江西学区 愛育委員会	けが、骨折時の三角巾の使い方訓練	3時間
	非常持ち出し袋の 配布と説明	江西小学校	江西小学校1年生を対象に非常持ち出し袋の意義説明と実物の配布	1時間
	合 計			24時間

3. 参加者実績(延参加者数) ※複数回開催している場合は総合計を記載

小学生	120名	中学生	5名	高校生	3名
未就学時・乳児	10名	家族・地域住民	57名	教職員・施設職員等	12名
有償ボランティア(講師・運営補助者等)			43名	無償ボランティア	名
総 計					250名

公民館名 岡山市立瀬戸公民館

実施施設名 岡山市立江西小学校

4. 実行委員会実績

構 成 員 数	40	名	主 な 構 成 員	江西学区連合町内会、瀬戸地区民生委員会、愛育委員会、栄養改善協議会、江西小学校、瀬戸中学校、瀬戸高等学校、瀬戸南高等学校、老人クラブ、社会福祉協議会
会 議 内 容	会 議 日	場 所	協 議 内 容 等	開催時間
	5月18日	瀬戸公民館	防災会役員による防災キャンプ内容等打合せ	1 時間
	5月25日	岡山市危機管理室	防災キャンプ開催の案内と講話の依頼	0.5 時間
	6月19日	瀬戸中学校	中学生の防災に関する作文発表依頼打合せ	0.5 時間
	10月6日	瀬戸公民館	防災会役員による、防災キャンプ内容確認	2 時間
	10月13日	岡山市危機管理室	防災キャンプ打合せ	1 時間
	10月24日	瀬戸公民館	江西学区防災会議・各学校へ作文発表依頼	2 時間
	11月17日	瀬戸公民館	防災資機材運搬準備、備蓄食料受け取り他	3 時間
合			計	10 時間

5. 事業成果の周知実績

行 事 名 称	江西学区防災会防災キャンプパネル展			
実 施 期 日	第1回	令和 5 年 12 月 11 日 から 20 日間		
	第2回	令和 年 月 日 から 日間		
主 な 活 動	プログラム等	講師・協力団体等	活 動 等 の 概 要	活動時間
	防災キャンプ写真等の展示		瀬戸公民館ロビーに活動記録写真を展示	時間
合			計	時間

6. 成果と課題

今 年 度 の 成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○防災クイズ掲載の防災キャンプチラシを作製したことにより、児童が楽しく防災キャンプに参加することができた。 ○当日は強風のため予定していた岡山市消防局の煙道体験やテント設営が中止となったが、強風時の防災キャンプ開催内容を検討するよい機会となった。 ○液状化現象が起こったと記載される古文書伝承をもとに、瀬戸南高等学校と協力し液状化現象実験と上映を行ったところ、多くの地域住民が液状化現象のメカニズムを理解し防災意識の高揚につながった。 ○学生による「防災について作文発表」では、39名の応募作品の中から瀬戸中学校生2名、瀬戸高等学校生1名、瀬戸南高等学校生2名が防災に関する作文を発表した。瀬戸南高等学校生の発表では、防災研修旅行において宮城県南三陸町を訪問した際の東日本大震災の災害の様子や、復興の様子をスライドを使用し、災害の恐ろしさとともに今後起こるかもしれない災害被害を最小限にしたいという想いを発表し参加者の共感を得た。 ○江西小学校1年生を対象に「防災学習会」を開催し、備蓄食料、水などを詰めた非常持ち出し袋の配布を行った。家庭内で防災意識の高揚に努めていただく契機としたい。 ○各町内会に配備している防災資機材を持ち込み、日頃使用できない機材の点検を兼ね稼働させることができた。
今 後 の 課 題	江西学区15町内会全て自主防災会を設立しているが、住民の中には、防災訓練の経験がないという人も少なくない。また、参加者も町内会の役職者でいつも同じ顔ぶれである。今まで連合町内会が主導し学区の防災キャンプを開催していたが、今後は各町内会の自主防災会毎に発案し地域の現状に沿い、地域に必要な防災訓練を開催することを検討した方が参加住民の増加に繋がると同時に、防災意識の高揚となる。

7. 活動の様子

【令和5年 11月18日(土) 江西学区防災キャンプ】

会場：江西小学校体育館・グラウンド

《連合町内会長による開会あいさつ》



受付では「防災マニュアル」の配布を実施



防災クイズ 正解者には商品を贈呈

《水消火器取り扱い訓練》



消防署・消防団の精鋭達

《液状化実験と
液状化現象の動画上映》



トントントンと容器を上下に揺ると、
下から水が上がってくる！



《非常食配布訓練》



《応急手当訓練(けが・骨折)》



《避難所用テント設営・発泡スチロールベッド組立訓練》

岡山市危機管理室 職員の指導のもと備蓄品の組立訓練を行いました。



《防災資機材の展示》



↑ 今回購入した油圧ジャッキと軽携行缶などの防災資機材を展示しました。↑
参加のみなさんは展示してあるチェーンソーに興味津々です。

各町内会に防災資機材として備蓄しているLED照明や発電機などを持ち寄り使用訓練を行いました。→



《非常食配食、炊き出し訓練》



強風の寒い中、
温かいお味噌
汁は美味しく
てありがた
かった。

栄養委員会の皆さん
の協力により、スムー
ズに配食訓練ができ
ました。



《起震車による地震体験》

体験した子供たちは、「怖かった～」と、大人
は「動くことも、何もできなかつた。いい経験
になりました。」と感想をいただきました。



《学生による防災に関して作文発表》

39名の応募作文の中から5名が選ばれました。



《岡山市危機管理室職員による講話》



受付で配布した「岡山市
防災マニュアル」を見な
がら防災についてわか
りやすくご説明いただき
ました。



【令和5年 11月22日(水) 非常持ち出袋の配布と説明】

会場：江西小学校ランチルーム

《非常持ち出し袋の意義説明と非常持ち出し袋の配布》



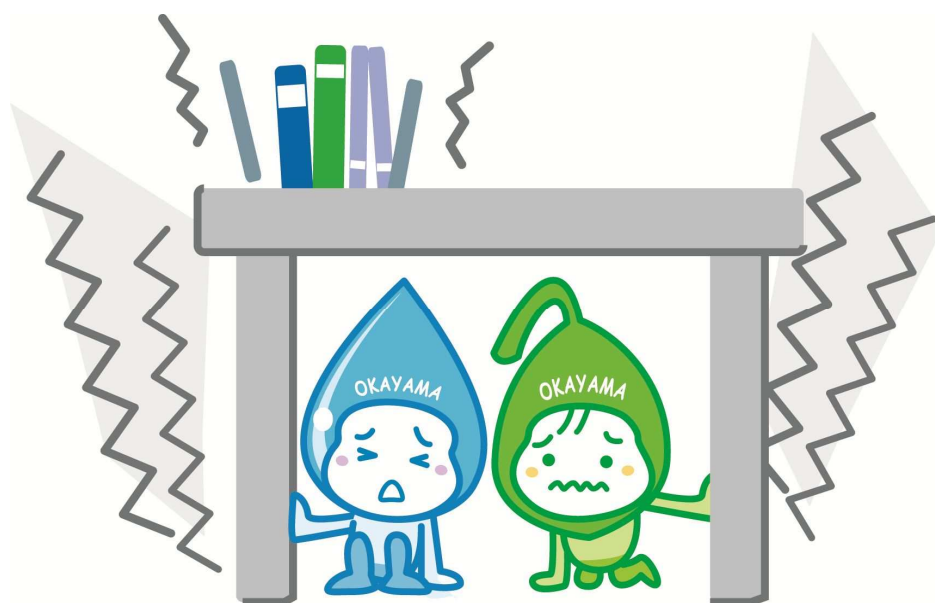
教頭先生から、防災会の皆様のご紹介がありました。



江西学区防災会では防災キャンプ事業の一環として、江西小学校1年生に、『非常持ち出し袋の贈呈』を行っています。中身は岡山市危機管理室からいただいたクラッカー、水、アルファ米、そしてNTT災害対策室からいただいた、災害時伝言ダイヤルのマニュアル付きティッシュを用意しました。

ただお渡しするのではなく、「非常持ち出し袋の中に何を入れたらいいか」を1年生全員に考えてもらいました。防災会の田淵会長から「一人ひとり、非常持ち出し袋に入れるものは違うかもしれないけれど、家に持ち帰って家族で何を入れたらいいか相談してください」とお話がありました。

資料編



岡山市防災キャンプ推進事業 実施イメージ

現状の防災教育

- ① 小学校、中学校、幼稚園、保育園等の施設単位での児童・生徒等向け防災教育
- ② 公民館、安全・安心ネットワーク団体等が行う町内会・小中学校区単位での地域住民向け防災教育



東日本大震災等、過去の災害から得た教訓を活かすときが来ている

- (1) 相互扶助の「まもりあい」
高齢者、障がい者、児童・生徒、乳幼児…多様な世代が相互扶助の精神を発揮して「まもりあい」お互いの生命を守る必要性が高まっている
- (2) 災害はいつ起こるかわからない！
児童・生徒・乳幼児であっても、学校園外で暮らす時間帯が存在する(放課後等)ことを理解し、さまざまな状況下においても身の安全を守るための経験が必要不可欠

児童・生徒に対する地域での防災教育が必要
児童・生徒を基軸とした地域住民の「絆」再生の好機

これからの防災教育

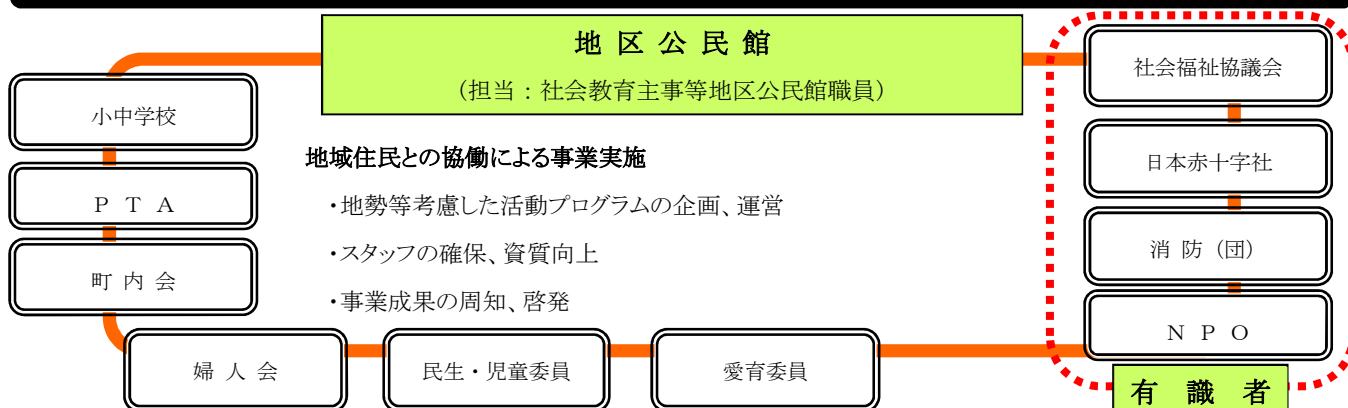
- ① 児童・生徒、地域住民が一同に参画した防災教育が必要
- ② 児童・生徒を基軸にした「住民の絆」再生が必要

岡山市防災キャンプ推進事業

災害発生時に自分の身の安全を守ることと、必要不可欠な相互扶助の精神(「まもりあい」意識)を高めるための防災教育

- I 児童・生徒と地域住民が関わり合う(=絆作り・共助精神の養成)
- II 児童・生徒と地域住民が経験し合う(=共通の防災意識を共有)
- III 児童・生徒と地域住民が教え合う(=災害に対応しうる技術や知識、応用力を相互補完)

防災キャンプ実行委員会 (実施公民館ごとに設置)



地域住民との協働による事業実施

- ・地勢等考慮した活動プログラムの企画、運営
- ・スタッフの確保、資質向上
- ・事業成果の周知、啓発

有識者による支援

災害支援活動に従事する諸団体や野外活動のノウハウを有する団体との連携による支援(助言)体制の確立、事業成果の向上

- I プログラム策定に際しての助言・提言
- II 事業実施時の指導・助言、資機材の貸与
- III 事業成果の効果的な活用に関する指導・助言

地域の実情を十分に把握

I 市民の防災意識の高揚

日常居住している地域で、発生する災害を予測し、災害発生時でも冷静に対応できる応用力を養成するために、避難所開設実習や屋外での炊き出しなど、災害発生時に想定される状況を疑似体験できる学習機会を提供し、地域住民の防災意識の高揚を図る

II 児童・生徒、地域住民が一同に参画した防災教育

共通の学習体験を通じて、児童ならびに生徒を基軸にした「地域住民間の絆づくり」を図り、地域住民間の共助精神の養成と、将来的な地域防災ネットワーク構築の機運を醸成する

III 生涯学習への関心の高揚

児童ならびに生徒が、学校教育外の環境(放課後・学校休業日)において罹災した場合など、様々な状況下においても身の安全を確保しうるために、必要な技術や知識を学習する機会を提供する

令和5年度 岡山市防災キャンプ推進事業 実施要項

令和5年3月17日
地域子育て支援課

1 目的

- (1) 日常居住している地域で、発生する災害を予測し、災害発生時でも冷静に対応できる応用力を養成するために、避難所開設実習や屋外での炊き出しなど、災害発生時に想定される状況を疑似体験できる学習機会を提供し、地域住民の防災意識の高揚を図る。
- (2) 共通の学習体験を通じて、児童ならびに生徒を基軸にした「地域住民間の絆づくり」を図り、地域住民間の共助精神の養成と、将来的な地域防災ネットワーク構築の機運を醸成する。
- (3) 児童ならびに生徒が、学校教育外の環境（放課後・学校休業日）において罹災した場合など、様々な状況下においても身の安全を確保しうるために、必要な技術や知識を学習する機会を提供する。

2 内容

公民館が中心となり、児童・生徒等の青少年ならびに一般市民が、学校休業日や放課後などに災害に遭遇した場合でも、自らの生命を守ることでできる防災技術や知識を体験して学ぶことができる、防災教育プログラムを実施すること。なお、実施にあたっては、児童・生徒等の青少年ならびに一般市民を対象とし、下記（1）～（3）のいずれかを含む内容のものであって、**原則として1日3時間以上の体験学習プログラムを実施すること。**

- (1) 地理環境等より想定される災害を視野に入れた防災教育プログラムの実施
- (2) 体育館、校庭、公民館等公共施設を避難所として想定したプログラム実施
- (3) 地域住民と児童・生徒等の青少年が相互理解を深め、相互扶助の精神を高揚することを目的とした活動プログラムの実施

<事業実施時の留意点>

・実施期間

事業の実施期間は、令和5年4月1日から令和6年1月31日までとする。

・実施日数

事業の実施日数は、特にこれを定めない。また、宿泊を必須とするものではないが、宿泊を伴う場合には予算の加配を行う。

・事業の対象

事業の対象は、岡山市内在住ならびに在勤・在学の青少年を基本とする。本事業における青少年とは、18歳未満の児童ならびに生徒等を指す。なお、事業効果ならびに事業成果の拡充をはかるために必要と認められる場合、対象を拡大することができる。また、活動内容ならびに実施場所の都合によって、年齢の制限や定員を定めることができる。

・事業の実施単位

事業の実施最小単位は、小学校区とする。ただし、事業効果ならびに事業成果の拡充をはかるために必要と認められる場合は、この限りではない。

・実施場所

事業の実施場所は、社会教育施設ならびに学校教育施設とする。ただし、事業効果ならびに事業成果の拡充や学習内容の充実のために必要と認められる場合は、この限りではない。

・実施主体

事業の実施主体は、岡山市教育委員会とし、公民館がその主たる運営を行う。

・運営主体

地域住民や学識経験者、社会教育施設職員を含む実行委員会を組織し、運営にあたること。実行委員会の構成員については、おおむね中学校区単位で存在する地域団体を視野に入れ、連合町内会、安全・安心ネットワーク、婦人会、子ども会、放課後児童クラブ、PTA等地域防災の担い手となりうる地域団体の参画を検討すること。

また、公民館以外の施設を利用する場合は、利用施設の長などの参画に努めること。

3 予 算

以下の費目において必要な経費を予算措置するものとする。

各費目において、予算不足の場合は担当課へ相談すること。

なお、不足する経費について参加者に負担を求めることができる。

費 目	根 拠 及 び 用 途
報 償 費	<p>【基準額】1回の開催につき、各館15,000円以内。支払金額は以下に準じること。</p> <p>①有識者(大学教授・研究員等) 日額上限 15,000 円</p> <p>②国家資格等保有者またはそれに準じるもの 日額上限 10,000 円</p> <p>③その他 日額上限 5,000 円</p> <p>【用途】</p> <p>(1)活動(事前研修を含む)にあたって招聘した講師・運営補助者等への謝礼</p> <p>(2)成果発表・啓発のために行う活動において招聘した講師等への謝礼</p>
消 耗 品 費	<p>【基準額】</p> <p>1回の開催につき、各館35,000円以内</p> <p>宿泊を伴う場合、5,000円加算</p> <p>※ コロナ対策の用品を購入する場合、別途8,000円以内で加算</p> <p>【用途】</p> <p>事業実施及び成果発表・啓発のために行う活動に用いる教材(1品30,000円未満)、炊き出し体験等に用いる食材、事務用品等</p> <p>※教材は、耐用年数が1年未満のものに限る。</p> <p>※参加者に全員配布し、回収しない教材に関する費用は、受益者負担とする。</p>
燃 料 費	<p>【基準額】1回の開催につき、各館5,000円以内</p> <p>※燃料費の対象となるのはLPガスのみ。</p> <p>薪・カセットガスは消耗品費内で積算すること。</p>
食 糧 費	<p>【基準額】</p> <p>1回の開催につき、各館20,000円以内</p> <p>宿泊を伴う場合、10,000円加算</p> <p>【用途】</p> <p>実行委員会開催や事業実施時の飲料</p>
保 険 料	<p>岡山市市民活動保険の対象とならない(例:謝礼金額が1日あたり3,000円を超える場合等)スタッフ・外部講師分に限る。</p> <p>※参加者は岡山市市民活動保険の対象となる。</p>
医 薬 材 料 費	<p>【基準額】公民館1館あたり 3,000円以内</p> <p>【用途】カットバン・湿布等、救急応急処置のために用いるもの。</p> <p>※除菌用アルコールは消耗品費内で積算すること。</p>
通 信 運 搬 費	<p>【基準額】 1回の開催につき、10,000円以内</p> <p>【用途】実行委員会開催案内等防災キャンプに係る郵送料</p> <p>※担当課で切手を購入後の支給となります。</p>

4 物品の貸し出し・提供

事業実施に必要な物品を提供もしくは貸し出します。

【提供】

- ①アルファ米（岡山県又は危機管理室から調達予定のため希望数を提供できない可能性があります。）
- ②ハイゼックス（ねこ袋）

【貸し出し】

※在庫数に限りがあります。貸出希望館が重なった場合、館同士の調整をお願いする可能性があります

- ①毛布：15枚、ブルーシート：30枚
- ②コンロ：2個（LPガス接続用）
- ③炊き出し用具（寸胴鍋：2、アルマイト鍋：20（うち満水時21ℓ：10、15ℓ：10）、やかん5（6ℓ）、ジャグ5（8ℓ）
- ④防災ゲーム（シャッフル：20セット、クロスロード：5セット、HUG：2セット）
- ⑤ビブス（赤・黄・緑）各色5セット

5 今後の予定

実績報告は令和6年2月28日締切です。

写真等を掲載する場合は、当該対象者に写真使用の承諾を得てください。

令和6年3月13・14日 令和5年度防災キャンプ推進事業 事例報告展
（岡山市役所本庁舎1階市民ホール）

防災キャンプ実施成果を模造紙1～2枚でまとめてください。

防災グッズ等があれば、合わせて掲示しますので、模造紙とあわせて令和6年3月8日までに担当課へ提出してください。展示物は、報告展終了後返却可能です。

担当課（連絡先）

岡山っ子育成局 地域子育て支援課

電話：086-803-1607

FAX：086-803-1718

e-mail：seishounen@city.okayama.lg.jp

担当：佐藤

防災キャンプ推進事業参加実績（令和元年度～令和5年度）

館名	令和元年度（実績）					令和2年度（実績）					令和3年度（実績）					令和4年度（実績）					令和5年度（実績）					令和元年度～令和5年度（実績）					
	実施日数	参加者（人）				実施日数	参加者（人）				実施日数	参加者（人）				実施日数	参加者（人）				実施日数	参加者（人）				実施日数	参加者				
		児童	生徒	地域住民等	合計		児童	生徒	地域住民等	合計		児童	生徒	地域住民等	合計		児童	生徒	地域住民等	合計		児童	生徒	地域住民等	合計		児童	生徒	地域住民等	合計	
操山	2	42	16	730	788					0					0					0	1	18	3	94	115	3	60	19	824	903	
岡南	1	24	10	170	204					0					0					0					0	1	24	10	170	204	
岡西					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
北					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
西大寺					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
上南					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
一宮					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
津高					0					0					0	1	30	13	114	157		1	30	13	114	157	1	30	13	114	157
高松	3	329	8	623	960					0					0	3	61	71	337	469		3	61	71	337	469	6	390	79	960	1,429
吉備	1	13	0	99	112	1	13	5	67	85					0	1	34	11	104	149	2	49	27	350	426	5	109	43	620	772	
妹尾	1	25	5	85	115					0					0					0					0	1	25	5	85	115	
福田					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
上道					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
興除					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
足守					0					0					0	1	6	1	47	54	1	18	2	65	85	2	24	3	112	139	
藤田					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
大元					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
東	1	41	41	279	361					0					0					0					0	1	41	41	279	361	
南					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
旭東					0					0					0	1	45	5	140	190		1	45	5	140	190	1	45	5	140	190
操南					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
山南	2	42	9	100	151					0					0	1	20	9	49	78	1	50	5	220	275	4	112	23	369	504	
福浜					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
富山					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
芳田					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
高島					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
京山					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
光南台	2	12	23	96	131	2	5	1	51	57	2	3	3	62	68	2	5	1	83	89	1	2	5	37	44	9	27	33	329	389	
御南西					0	1	12	35	55	102	1	16	15	89	120	1	15	21	111	147	1	46	20	155	221	4	89	91	410	590	
旭					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
東山					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
岡輝					0	1	13	0	33	46					0					0					0	1	13	0	33	46	
御津	1	34	28	117	179	1	23	20	135	178	1	56	24	154	234	1	53	50	230	333	2	36	56	116	208	6	202	178	752	1,132	
灘崎					0					0					0					0					0	0	0	0	0	0	
建部町	3	172	0	182	354					0	1	0	1	46	47	3	41	0	130	171	2	17	0	142	159	9	230	1	500	731	
瀬戸	1	217	20	277	514	1	0	18	75	93	1	0	15	70	85	2	105	5	60	170	2	120	8	122	250	7	442	66	604	1,112	
万富	1	19	0	61	80					0					0					0					0	1	19	0	61	80	
合計	19	970	160	2,819	3,949	7	66	79	416	561	6	75	58	421	554	12	279	98	814	1,191	18	492	215	1,892	2,599	62	1,882	610	6,362	8,854	



【問い合わせ先】

岡山市岡山っ子育成局子育て支援部地域子育て支援課
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1
電話番号：086-803-1607
FAX番号：086-803-1718